

# 外国語科(英語)

言語材料の取扱いについて、要点は何か。

1 発音と綴りとを関連付けて指導すること。

小学校において外国語活動が導入



小学校の外国語活動では、音声を中心に慣れ親しむ活動



中学校では、文字を通じた学習が始まることから、音声と文字の関係に触れた学習をすることが適切である。

2 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

※ 円滑にコミュニケーションを行い、豊かな内容を伴うコミュニケーションを行うためには、正しい文法の基盤が必要不可欠である。

文法については、コミュニケーションを支えるものととらえ、コミュニケーションを実際に行う言語活動と効果的に関連付けて指導することが重要であることを今回の改訂で新たに示したものである。

文法事項を指導する際には、その意味や機能を十分に理解させた上で、それまでに学んだ語彙や文法事項と関連を図り、言語活動の中で自分の考えや気持ち、事実などを伝え合うことに生かすことが大切である。

3 (3)のエの文法事項の取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心にならないよう配慮し、実際に活用できるように指導すること。また、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。

※ 語順や修飾関係などにおける英語と日本語の違いに配慮することが必要である。



言語に関する能力の育成を重視



日本語との違いを意識させることは、単に英語に特有の語順等に注意を向けさせるだけでなく、日本語を含めた言語に関する能力の向上に資するものと考えられるからである。

#### 語順における日本語との違いの例



英語における動詞と目的語の語順は、日本語における述語と目的語の語順とは基本的に異なることなどが挙げられる。

修飾関係における日本語との違いについては、次のような例が挙げられる。  
(修飾関係が日本語と同様の例)

a sleeping baby : 眠っている赤ちゃん

a big dog : 大きな犬

(修飾関係が日本語とは異なっている例)

a picture of my family : 家族の写真

the girl with short hair : 短い髪の女の子

the boy swimming in the pool : プールで泳いでいる少年

a friend who lives in London : ロンドンに住んでいる友達

the mountain I climbed last year : 去年登った山

- 4 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること。

#### 文法事項の指導

※ 今回の改訂で新たに示されたもの



文法事項を指導する際、一つ一つの事項の指導において英語の特質を理解させるだけでなく、関連のある文法事項についてはより大きなカテゴリーとして整理して理解させることが必要である。



(例)

- ・ 現在形や過去形の指導を時制として整理
- ・ 不定詞や関係代名詞などの指導を修飾という側面から整理
- ・ 英語と日本語との違いに焦点を当てて整理

「まとまりをもって整理する」とは



既習の文法事項と新しく学んだ文法事項の共通した特徴を，例えば「まとめ」などとして比較対照しながら整理し，効果的な指導ができるようにするなどの工夫をすることである。

文法はコミュニケーションを支えるものであり，コミュニケーションを円滑に行うとともに，内容を伴う豊かなコミュニケーションを図るためには，文法事項を正しく理解することが重要である。



そのための効果的な指導方法の一つとして，関連のある文法事項をまとまりをもって整理することを明示したものである。したがって，あくまでコミュニケーションを図る言語活動において活用することを目指して，こうした指導が行われるべきことに十分留意する必要がある。